



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	在宅障がい児(者)の家族に対する指導法の検討：看護師が行う気管内吸引技術の画像による分析より
Author(s)	伊藤，紀代；佐藤，洋子；森下，節子
Relation	第11回看護総合科学研究会学術集会．2007．
Issue Date	2007
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/53105
Type	conference paper
File Information	kangosogo-11.pdf



在宅障がい児(者)の家族に対する指導法の検討 ～看護師が行う気管内吸引技術の画像による分析より～

○伊藤紀代、佐藤洋子、森下節子

北海道大学医学部保健学科

【目的】熟練看護師が行う気管内吸引動作を調査・分析し、在宅障がい児(者)の家族に対する教育方法を検討する。

【研究方法】対象は、重症心身障がい児(者)施設 2 施設に勤務する経験 5 年以上の看護師各 2 名、計 4 名とした。吸引の準備から後片付けまでを DVD 録画(SONY HandycamDVD403)し、1 回の吸引にかかる時間、カテーテル挿入時間について数量的に比較した。次に、録画された内容を言語化し、各看護師の手順の違いについて比較した。必要時、動作記録後に面接を行った。また、言語化した基本動作と面接内容は KJ 法を用いて意味内容ごとに分類した。記録単位は必ず動詞一つを含む文節とした。倫理的配慮として、研究の趣旨を文書と口頭で説明し、各重症児(者)施設長と対象者の承諾を得たのち、対象者から書面による同意を得た。研究の不参加や中止による不利益がないこと、DVD は共同研究者のみが使用し個人情報保護に努めること、重症児(者)の顔など個人が特定できる部位は撮影しないことに関して説明した。共同研究者間で分類の妥当性を検討し、研究結果の信頼性を高めた。

【結果】施設内にて午前、午後共に 2 時間、気管内吸引に関連する看護行為を撮影し、計 138 場面(総撮影時間 273 分 40 秒)を分析した。1 回の吸引を手袋着用から手袋を破棄するまでとし、吸引時間を看護師 4 名で比較したところ、A 看護師は 167.8 秒(吸引 8 回の平均)、B 看護師 139.8 秒(同 8 回)、C 看護師は 109 秒(観察中 1 回のみのため参考値とする)、D 看護師 65.6 秒(同 7 回)であった。カテーテル挿入時間は平均 7.6 秒であった。両施設とも、吸引カテーテルは 24 時間毎の交換であった。施設ごとに吸引の手順が異なっており、カテーテルの動かし方、吸引後の通し水、万能つぼのふたの開閉の順番等には個人差が見られた。言語化した 311 の記録単位を KJ 法を用いて、〔アセスメント〕〔看護技術の提供〕〔専門職としての基礎知識〕〔看護管理〕〔教育〕の 5 カテゴリーに分類し、以下の表が結果として得られた。用語の選択と分類に関しては、看護行為用語分類、ICNP® を参考にした。

【考察】1 回の吸引で、カテーテル挿入が複数回観察され、カテーテル挿入時間が短いことに比べて総吸引時間が長かった。ふたの有無が総吸引時間に影響していた。施設によって吸引の物品や手順が異なるため、急性期病院との手順の相違が予想され、在宅移行直前から、マニュアルを活用した指導の連携が必要と考えられた。また、分類された 5 項目のうち、〔看護管理〕と〔教育〕に関しては、施設勤務の看護師に必要な技術・知識項目が多く、家族が習得する必要性は少ないと考えられた。〔アセスメント〕〔看護技術の提供〕〔専門職としての基礎知識〕の 3 項目においては、既存のマニュアルと対応させると、家族が適切な知識を持ち、実施可能であることが望ましい項目が共通していた。

【結論】気管内吸引を必要とする在宅障がい児(者)の家族に求められる関連技術項目や知識の広範さが認められた。マニュアルの使用、吸引技術の簡略化・省力化、指導範囲の標準化、評価基準の作成が指導を効果的にするための今後の課題と考えられる。本研究は、平成 18 年度北海道大学医学部保健学科研究助成によるものの一部である。

表 気管内吸引に関連した技術・知識項目 () 内は記録単位数

大項目	小項目
アセスメント	気管内吸引の必要性を判断するための観察 (11)
	気管内吸引の必要性の意思決定 (1)
	気管内吸引後の呼吸状態の評価 (5)
看護技術の提供	気管内吸引技術の実施 (53)
	鼻腔・口腔内吸引の実施 (27)
	カニューレ管理 (20)
	吸引器の管理 (20)
	酸素療法 (3)
	ジャクソンリースの使用 (12)
	レスピレーターの使用と管理 (15)
	経皮酸素モニターの使用と管理 (6)
	唾液持続吸引器の使用と管理 (3)
	ネブライザーの使用と管理 (6)
	体位交換 (6)
	腹臥位療法 (9)
	肺理学療法 (2)
	気管切開している人の入浴 (1)
	体温測定 (7)
	食事の援助 (8)
	経管栄養 (24)
	口腔ケア (16)
専門職としての基礎知識	解剖の知識 (4)
	病態の知識 (5)
	薬の知識 (2)
	医療機器の知識 (1)
	法的知識 (1)
看護管理	コスト (2)
	吸引方法に関する研究 (1)
	口腔清拭用リンスの研究 (1)
	分担 (12)
	リスクマネジメント (7)
	インфекション・コントロール (12)
	看護観 (2)
	記録 (1)
	緊急時の連絡体制の整備 (1)
	衛生材料の選択 (1)
	養護学校教員訪問時の連携体制 (1)
	看護助手のためのマニュアル作成 (1)
教育	看護助手への指導 (1)